

本リリースの内容は、アメリカ東海岸において、7月9日(木)午前9:00（日本時間9日午後10:00）に発表しました。

2026年7月10日  
Hitachi Digital Services

## Hitachi Digital Services、ServiceNow との提携により、AI を活用したミッションクリティカル領域におけるインフラ監視ソリューションを高度化

Hitachi Intelligent Infrastructure Monitoring と ServiceNow AI Platform のデータ・分析機能が連携し、リアルタイムの運用データから自動化されたアクションの実行を支援

株式会社日立製作所(以下、日立)の米国子会社である Hitachi Digital Services は、ミッションクリティカルなインフラにおいて、信頼性の高い、効率的な管理を強化するため、AI コントロールタワーとしてビジネスの変革を牽引する [ServiceNow](#) と提携したことを発表しました。両社は本提携により、リアルタイムモニタリングと遠隔点検を提供しながら、複雑な運用環境での統合的な対応を可能にする AI 駆動型ソリューション「Hitachi Intelligent Infrastructure Monitoring(以下、HIIM)」の高度化を推進します。広域的なパートナーシップエコシステムの一環として、本提携では、Hitachi Digital Services の OT(制御・運用技術)分野における深い知見と、フィジカル AI およびシステムインテグレーションの専門性を生かし、ServiceNow AI Platform 上でお客様の業務データと企業ワークフローを連携することで、現場の運用チームが得るインサイトを企業全体で活用できるよう支援していきます。

HIIM と ServiceNow を組み合わせたプラットフォームは、重要インフラの安全性と運用効率の向上を実現するインテリジェントなソリューションである「HMAX by Hitachi」(以下、HMAX)のビジョンにも合致しています。AI で社会インフラを革新する次世代ソリューション群である HMAX は、アセットインテリジェンス、デジタルサービス、インフラのライフサイクル管理に向けた専門的なサポートの組み合わせによって、計画、予測、予防を最適化します。こうした一連のイノベーションを通じて、日立は社会インフラが抱える最も複雑な課題に取り組み、お客様と社会へ最大の成果と価値の提供をめざします。

エネルギー、モビリティ、製造をはじめとするミッションクリティカルなインフラ事業者は、労働力不足や運用負荷の高まりのなかで、安全性、信頼性、そしてパフォーマンスの維持がこれまで以上に強く求められています。さらに、迅速に必要な意思決定を行うにあたり、個別に構築・運用されている複数のシステムと、その結果としてサイロ化されたデータソースを考慮しなければならず、運用要件は一層複雑化しています。加えて、多くの企業では、運用データを複数の組織・システムをまたぎ、リアルタイムで一貫したアクションにつなげられていないのが現状です。

ServiceNow CCO 兼エンタープライズ AI アドバイザーである Chirs Bedi 氏は「AI で成功を収めている企業とは、単に最も多くのデータを保有している企業ではありません。データに基づき、リアルタイムで組織横断的に、ガバナンスを組み込んだ形で行動に移せる企業です。Hitachi Digital Services は、ミッションクリティカルな環境において何が重要かを見極める深いドメインナレッジを有しています。そして ServiceNow は、その知見を企業規模での自律的なアクションへと変換するプラットフォームを提供します。エネルギー、製造、モビリティ分野における両社のお客様において、このギャップを解消することは従来の事後対応型から自律的な解決へと移行することを意味します。その結果、お客様はリスク低減や作業者の安全確保、安定した運用の継続を期待できます。」と述べています。

特定のベンダーに依存しない形で設計されている HIIM は、映像、熱画像、IoT センサーと高度な分析から得られたデータを統合し、インフラの健全性を継続的に可視化します。さらに、ServiceNow の Workflow Data Fabric、分析機能、AI 駆動型ワークフローと組み合わせることにより、HIIM はデータの可視化にとどまらず、企業全体における自動化されたアクションの推進を可能とします。これにより、お客さまは以下を実現できます。

- ・ 断片化した複数のソースから、リアルタイムでデータを収集
- ・ 収集したデータを、自動化されたワークフローに変換
- ・ 問題を迅速かつ事前に検知、優先順位付けし、対応
- ・ 運用チームとエンタープライズチームをシームレスに連携させ、問題解決を加速し、リスクを低減

Hitachi Digital Services の CEO であり、GlobalLogic の社長兼 CEO を務める Srinu Shankar (スリニ・シャンカール) は「Hitachi Digital Services と ServiceNow AI Platform は、業界への深い知見と企業向けのワークフローの自動化を組み合わせることで、現場の運用とエンタープライズシステム間の分断をより一層解消します。その結果、インサイトを大規模なアクションへと転換する、リアルタイムで連携された運用モデルを実現します。遅延や障害、作業員の安全リスクが運用やビジネスに重大な影響を及ぼす可能性があるミッションクリティカルな環境において、この機能は不可欠です。このようなイノベーションは、両社の強固なパートナーシップがあってこそ実現できるものです」と述べています。

## 関連リンク

- ・ [HIIM & ServiceNow](#)
- ・ [HMAX by Hitachi](#)

## 商標注記

記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

## Hitachi Digital Services について

日立製作所の 100% 子会社であり、人とテクノロジーの力でミッションクリティカルな基盤を支えるグローバルシステムインテグレーターです。クラウド、データ、IoT、ERP モダナイゼーションにおいて、先進的な AI を基盤としたソリューションを提供し、企業のフィジカル・デジタルシステムの構築、統合、運用を支援します。IT と OT(制御・運用技術)の融合により、業界横断で効率性を高め、イノベーションを促進し、成長を支援します。日立グループが 110 年以上にわたり培ってきたエンジニアリング力と技術力を背景に、Hitachi Digital Services は、より安全で持続可能な未来に向けてスマートな基盤を提供します。詳しくは、<https://www.hitachids.com> をご覧ください。

## 日立製作所について

日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、社会インフラをデジタルで革新し続けるグローバルリーダーをめざし、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エナジー、モビリティ、コネクティブインダストリーの 4 セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略 SIB ビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumada をコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2025 年度(2026 年 3 月期)売上収益は 10 兆 5,867 億円、2026 年 3 月末時点で連結子会社は 606 社、全世界で約 29 万人の従業員を擁しています。詳しくは、[www.hitachi.com/ja-jp/](http://www.hitachi.com/ja-jp/)をご覧ください。